

## 平成28年度第2回河内長野市行財政評価委員会

日 時 平成29年1月31日（火） 午前10時00分～午前11時15分

場 所 市役所3階 301会議室

出席者 河内長野市行財政評価委員会 6名

事務局 小林総合政策部長、島田政策企画課長、早川政策企画課参事、  
尾西政策企画課課長補佐、浦田政策企画課行政経営係係長  
並びに政策企画課課員

傍聴者 0名

### 1. 開会

### 2. 案件1. 外部評価について

#### <主な質問、意見>

(委員) 評価内容は現時点ではこれで良い。実際に内部評価結果をみなければ、わからない部分もある。38施策全てを評価すると煩雑になるので、3分野に分けるのも良いと思う。また、私たち委員以外の意見も、もう少し聴いた方が良いのではないか。

(委員) 以前に実施していた事業仕分けでは委員が18人いたと思う。各分野に長けた方の他、市民公募をさらに入れるべき。専門性の確保のためにも学識経験者を増やし、他にボランティアとして市民をメンバーに入れるのはどうか。また、1年更新のメンバーと、3年継続のメンバーに分けてはどうか。

(委員) ABCの3段階評価では曖昧。B評価に集中する可能性もある。例えば点数化すれば厳しく事業を評価できるのではないか。外部評価を3分野に分けるのは良いと思う。専門性の高い方が関わることで、より中身の濃い評価が期待できる。

(委員長) 達成率、達成数のどちらにするのか、また、対前年比評価か、それとも全体比較で評価するのか。個々の指標を評価した上で、全体を評価するなど、内部で検討してもらいたい。区分はA～E位まであって良いと思う。

(委員) 全ての施策分野で、頻繁に話あえる機会を設けるのが良い。また、地域課題を話し合う場とは別に、このような全体を考える場、それも気軽に意見交換ができる場があればよい。資料は、「住みよさ指標」、「満足度」など、分かりにくいところがあり、委員側に読み解く力が求められる。分かりやすく、丁寧な評価を考えるなら、通知簿のように細かな項目に分けてはどうか。また、他市比較もあればよい。

(委員長) 類似団体比較も出してはどうか。

(委員) 市民意見の聴取方法について、高齢の方の場合、ほとんどが電話で用件を伝える。文書やインターネットでは意見が限定されてしまう。

(委員長) 世代別の意見聴取方法を、たくさん用意してもらいたい。

(事務局) 市民意見の聴取は言葉としてはいいが、非常に難しい。ボランティアの参加は、1つの案として内部で検討する。評価の記入方法は、自己評価の見直しを、今回の意見も踏まえ検討したい。他市比較など、資料の様式は現時点の案であり、どのような情報を入れるべき

か、今後内部で精査していく。

**(委員)** 市民意見の聴取方法はそもそも誰の声が聴こえていて、誰の声を聴かなければならないのかが一番大切である。施策、事業の評価については、市民一人あたりのコストや、事業の対象となる各年代、属性別のコストも踏まえ、意見を聴かなくてはならない。それにより、一定公平、公正を担保できる。また、行財政が厳しい中で選択と集中を進めていくと、コストでの衝突も大きい。外部評価や、市民意見の聴取を行い、利害関係者との調整を図るとともに、説明責任をしっかりと果たしていくことが行政に求められる。もう1点、市民からの提案をどのような仕組みで引き出していくかも大事である。ただ要望するだけでなく、行政とパートナーシップを組むための提案を受ける仕組みが重要。

**(委員長)** 協働・行財政は全体に関わる話である。初年度は協働・行財政を評価してはどうか。

**(委員)** 一昔前は、「協働は協働担当課で」と言われることが多かったが、最近は各課が協働を意識するようになった。意識改革の賜物である。

**(委員長)** 評価者を考える中で、呼びかける対象を絞るべき。ただ声の大きい市民でなく、経営者視点を持つ市民の発掘、責任・愛着を持って協力してもらえる市民層の開発が重要で、それが参画と協働である。業務を大手企業に委託するだけでは、資金が外へ逃げる。地域経済の還流を考えると地元団体への委託を進めるなどの取組が大切である。事務事業のコストダウンも考慮してもらいたい。施策評価においてはパフォーマンス向上の議論が重要だと思われる。

また、事業評価の指標についても本委員会で議論すべき。例えば、老人クラブ団体数増加でなく、加入者数の増加や、活動事業数の増加を目指すべきであるし、シルバー人材センター登録者数でなく、社会参加者数にすべきでないか。行政は今あるデータに頼りすぎている。新しい調査手法を研究してもらいたい。

**(事務局)** 各事業に繋がる指標は見直しをかける。

**(委員長)** 兵庫県神戸市や愛知県高浜市では、AからEの区分で評価している。評価方法を参考にしてもらいたい。達成度評価や、指標が上向きであるか、下向きであるか、その原因の検証などを行っている。

**(事務局)** 財源が厳しい中、総合計画の実現のために、しっかりと内部で評価し、外部の視点からのご意見もいただきながら取り組んでいきたい。

**(委員)** 指標の目標値は、市内部で設定したものか。内部で設定すると、目標が甘くなることも。

指標にも良し悪しがあるので、様々な意見を聴き、設定してほしい。

**(事務局)** 外部の意見を聴きながら設定した総合計画の指標以外に、補足の指標も必要であれば提示し、内容も見直しながら進めていきたい。

**(委員長)** 指標を立てることが思考の誘導になりかねない。市民にアンケートを実施する等、指標の妥当性を検証してほしい。

### 3. 閉会